

バビロニア、イラーン、及び、印度の諸文化の融合せる基礎の上に、新たに立ちたる希臘文化であつた。バクトリアの文化のヘレニズム的文化圏内に於ける意義の重要性も特殊性も、常に、斯かる觀點に於いて、其の妥當性を見るが、バクトリアが、政治史的に、バクトリア王國として、古代社會に出現したる理由は、セリウシッド王朝史の聯關に於いて理解せられるものであつて、著者は、バクトリア王國のユーテドミド (Euthydemis) 王朝史を、從來行はれてゐるが如く、ヘレニステックの全體的歴史より除外することの不當を主張してゐると同時に、印度に於ける希臘人の活動が、常に、印度史の一部としてのみ取扱はれてゐるのは、無意味であると斷じ、全ヘレニズムの歴史の上より觀る可きことを主張してゐる。

本書は、又、この種の研究には、甚だ貴重なる斷片的資料を用ひて、深き批判的考察の下に、全體的概念の正鵠を得んことを期して居るが、特に、本論である第二編の東方イラーン及び北部印度に於ける希臘人の支配を論ずる以前に、第一編に、セリウシッド王朝に於ける社會的諸現象を、本論の背景として詳述し、これに據つて、東方に活動せる希臘人及び希臘文化の性格を限定せんと試みてゐる點は、著者の用意の周到なるを思はしめる。又、バクトリア王國の歴史の發展過程は、全く東方に於けるマケドニアの歴史の再現であるといふ、唯、ユーテドムスは、アレキサンダー大帝程の成功を贏得なかつたとしても、彼の統治は地主との和解と協力とに成功した。此の事實は、實際は、アレキサンダー大帝

自身が、晩年、波斯の統治に苦しみ、土民との協調によりて、具體的には希臘イラーンの國家の創建によりて、唯一の解決策としたのと軌を一にするわけである。

附録として、多數の東洋史的問題を取扱ひ、貨幣の標本、其他、地圖三葉をも添加して、研究者に便益を與へてゐる。(足利 惇氏)

ファシズムの哲學

バルミエリ 著

Palmieri, Mario: The Philosophy of Fascism.

Contents. Part I. Fascism as a way of life. Part 2.

Fascism as a Political and Economic Organization, Part

3. Fascism as a Historical Process.

近代的反動思想としてのファシズムは今やヨーロッパの全分野に出現し、反動の歴史に新たな段階をもたらした。

この反動運動は一連の全體主義國家群を形成し、英佛を中心とする傳統的な民主主義國家との間に尖鋭な對立抗争を巻き起してゐる。

英佛に劣らず高度に發展した資本主義をもち、政治機構に於ても民主政治を樹立してゐた伊、獨が之等一切の近世的要素を排除して早くもファシスト的攻勢に轉化したその歴史的要因については Alexander Schirin に依つて一應解決せられてゐる。

なる程、彼の云ふ如く、イタリヤに於ても、ドイツに於ても民主政治が有機的に完成したのは大戦後であり、國民が之に習熟するに到る程、組織的、歴史的に發展してみなかつた事は事實であらう。又、確乎たる議會主義を樹立してゐた英佛に比して、こゝに於ては民主政治は尙ほ安定的存在となるに到るには餘りに若かすぎた事も事實であらう。

しかし、之等歐洲列強に於て、高度資本主義に含まれた危機が一様に、政治に於ける強力主義を要請しつゝある今日、英佛に於ては議會の廢止が問題とせられる事なく、ひとり、伊獨側に於てのみ議會政治を眞向から否認する處の反動革命が出現したのは何故であらうか。

我々は、伊獨に於て、更にバルカン諸邦に於て、獨裁政治を生み出したその歴史なり、社會なりを更に深く分析す可きであると共に又之等反動革命を基礎付けてゐる新たな世界觀の檢討に力を注ぐ可きである。

元來、ファシズムは政治經濟的な運動として出發し、現在に於ても根幹的にはかゝる性格を維持しつゞけてゐる。一九二五年ローマ進軍以後、引續き現れた立法や綱領、國家制度、又一九二六年四月三日發布せられた處の Syndicates and Collective Relations of Labour に感ぜらるる Corporative Idea を見る時、高度の發展に依つて、自己機構の崩壊に直面した近代社會の内部的な反對運動として成立した政治的經濟的運動としてのファシズムの姿をはつきり認識し得ると共に、彼等の抱く New Idealism、

Fascist Ethic はこゝから導出し得るものである。

而して、ファシズム運動の目的とする處が、あく迄社會全體的な構造の變革にあり、ファシスト國家の建樹を窺局の理想とするが故に、それは單なる政治的な理論に止らず、更に之を根本的に基礎付ける新たな世界觀を包含してゐなければならぬ。そして事實、政治的な平面から離れ、更に深く透徹して、前世紀的な個人主義、合理主義、物質主義に對立する科學的なファシズム哲學として登場し、ファシズム精神の樹立、ファシズム・ルネッサンスの實現に進みつゝある。

Mussolini が Encyclopaedia Italiana に於て、又 Parmigli が本書第一部に於て Meaning of Life を反省せる如く、ファシズムの一般的な生の觀念、而も精神的な生の觀念に迄思考し到らねば我々はファシズム世界觀の眞髓に到達し得たとは云ひ得ない。ファシズムの國家觀、社會觀はこの世界觀的な基礎付に依つて始めてその意義深きものを思はしむる次第である。この意味に於て本著者が Fascism as a way of Life を本書冒頭に掲げ、the goal of man is the spiritualization of man を説き明し、Principle of Unity, Principle of Authority, Principle of Duty の三原則につき詳述し、之等をして社會の基底、法及道徳の基調たらしめてゐる事は意味深きものがある。

前世紀の合理主義に對立するこの新たな世界觀はその非合理性を生る哲學として發展させ、人間存在の堅固な基礎を毀ち、こゝに新たな形式を生に與へ、その意義を明確ならしめ得たのである。

國民の間に存する見えざる而も鞏固な聯結(unity), hero of the soulを national heroとして重要視する authorityの原則、そして之等を可能ならしむる處の人間行動の最終定要因たる Dutyの原則、之等は從來の個人主義的原子論に立つ Democracyに代る新 spiritual Democracyの實現を可能ならしむる處のものとせらる。

この様な社會の異質性と選良の理論は、ムッソリーニに於ても「人間の不變的な豊かなをとして創造的な不平等性を以て政治の第一の事實と考へる」と云ふ言葉の中にも現れてゐる處である。人間の資性 (intellectual, moral and physical attributes) を以て不平等であるとなし、人間の國家への參與も亦不平等的に評價せる可きものと主張し、而も個人が自己否定に依つて彼の特殊利益の放棄に依つて、死に依つてさへも彼の人間としての價値の存するかの徹底的に精神的な存在を實現する生を具現する時、選良 (national hero) をピラミッドの頂點に位地せしめる階級、即ち社會的、政治的、經濟的、道德的、宗教的オルガニズムが建設せられるのである。

Vilfred Pareto が十九世紀の民主的な社會組織の崩壞の中に新しい社會の形式を求めた時、構成せられた先驅的フアンズムもこの選良の循環と社會の異質性を主軸とするものであつた。

選良 (elite) と階級とを以て構成原理とし、主權國家に依つて率められた社會像 (それは又 Antonio Pagano の Idealismo e Nazionalismo に於て全體主義思想として論述せられた)、價値的に不平等な社會成員の共同性に本づく有機的ピラミッド形態はこ

うに新な相貌を以て我々の前に提出された。Parmieli はかくして次の様なムッソリーニの言葉を最後に引用してゐる。"..... Fascism is thus for the only serious form of Liberty, the Liberty of the State and form of Liberty, the Liberty of the State and of the individual within the State" (The Dante alighieri Society of Chicago, U. S. A. p. 261. 邦價九圓餘) (小澤言見)

バルカンの近況

英國國際情報局編

South Eastern Europe—Political and Economic Survey.

最近のニュースはハンガリー外相チヤキー伯が九月八日バルカン中立ブロック形成の爲、ブタベストを経てローマを訪れたと報じた。歐洲諸國際間の複雑極まる微妙なる動きは、如斯直接大音響となつて、海を越えた世界の津々浦々にまで響き渡る世の中である。而も其の列強を動かせる因子の少くとも一部をなせるバルカンの状態を知る事は、確に今日の世界を解く重要なキーポイントではなからうかと思ひ、通讀に手頃な本書を選んで敢て紹介する事とした。

事實目下進行しつつある世界第二次大戰は、二十五年前に遡つて、バルカンなる名を再び動亂と鬪争とに結びつけて考へしめず